

資料に親しむ会 令和6年度第5回

「新版画の月と星」

京都府立京都学・歴彩館職員が「新版画の月と星」を、下記のとおり開催しました。

記

- 日 時 令和6年9月18日（水）午後2時30分～3時30分
- 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール
- 参加者数 54名
- 内 容 新版画に描かれた天文現象は現実で起きていたのかをテーマに、ゴッホの《星月夜》を踏まえ、川瀬巴水の《京都清水寺》、三木翠山《春の夜の清水》を取り上げた。
月や星の位置などから実際の夜空の推察し、新版画の夜の描き方を紹介した。
- 参加いただいた方々のご意見（参加者アンケートより）
 - ・版画という文化系の創作作品と天体という理系とのマッチングで考察していました。
 - ・ステラナビゲータを使った天文データと版画の比較がおもしろかったです。
 - ・絵のすばらしさはもちろんですが、その時の天体の可能性とともに考察するのはとてもおもしろいと思いました。
 - ・講師が制作現場に行き、同時刻に撮影した写真も見せていただけました。
 - ・画像や写真がたくさんあって良かったです。

（講座の様子）

